

平成 30 年 6 月 27 日現在

機関番号：32640

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26284054

研究課題名(和文) 神智学運動とその汎アジア的文化接触の比較文学的研究 東西融和と民主主義の相克

研究課題名(英文) A Comparative Literature Study on Theosophical Movement and its Pan-Asian Cultural Intercourse; the Conflict between the Harmony of the East and the West and the Surmounting Nationalism

研究代表者

安藤 礼二 (Ando, Reiji)

多摩美術大学・美術学部・教授

研究者番号：20445620

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：これまで学術的な研究の対象とは見なされてこなかったが、神智学が宗教、政治、芸術などの近代化で重要な役割を果たしたことは近年認められている。本研究では、それらをグローバルな視点から再検討し、新たな研究の可能性を探ることに成功した。プロジェクトメンバーたちによる国内外の調査によって貴重な一次資料を収集しただけでなく、海外の研究者たちとの連携を深めた。日本ではじめて神智学を主題として開催された国際研究集会など、いくつかの研究会を開催し、神智学研究を代表する世界の研究者たち、日本の研究者たちが一堂に会した。これらによって、さまざまな分野の研究者のネットワークを構築し、今後の研究の礎を築くことができた。

研究成果の概要(英文)：Theosophy had not been a subject of academic research until recently when the importance of the role it played in the modernization of religion, art and politics came to be more widely recognized. In this research project, we succeeded in re-examining the global aspects of this role played by Theosophy, and succeeded in identifying novel areas of inquiry. The members of this project were able to collect precious primary material at home and abroad, and to foster new collaborations with foreign researchers. We held several conferences about Theosophy including the first international conference on such a topic to be organized on Japanese soil. Those meetings were attended by several scholars from around the world and Japan, and have resulted in the establishment of a transnational network of researchers from various disciplines, which will surely function as the starting point of the new generation of Theosophical research.

研究分野：民俗学、宗教学、比較文学

キーワード：比較文学 比較宗教学 トランスカルチュラル

1. 研究開始当初の背景

神智学運動は、ブラヴァツキー夫人がオルコット大佐らとともに 1875 年にニューヨークで神智学協会を創設したことに始まる。その後、本部をインドに移し、東洋の宗教思想と西洋の神秘思想を折衷した、宗教ではないが宗教的な靈性思想運動として、欧米からアジアにかけて広まった。インドのアディヤールに本拠を置くアディヤール派、アメリカのサンディエゴ(現在パサディナ)に本拠を置くポイントロマ派をはじめ、いくつかに分裂しながら現在に至る。

従来、神智学は、学術研究の対象とはみなされず、西欧的に誤解された偽仏教として、あるいはトリックを用いた心霊主義として、批判的に言及されるのが常だった。しかし 1980 年代以降、Robert Ellwood や Robert C. Fuller、W.J.Hanegraaf の研究によって、近代靈性思想史における神智学の重要性は認知された。とはいえ、基本的にニューエイジ運動の原点としての評価であった。

それに対して変化が見られたのは 1990 年頃からである。Thomas A. Tweed がアメリカにおける仏教の普及に果たした神智学の重要性を、さらに Stephen Prothero が、アジアでの仏教復興運動に及ぼした神智学の影響を指摘した。また G.Obeyesekere と Gombrich が、オルコットの協力者として出発し、後に袂を分かった仏教者ダルマパーラを詳細に分析し、南インドのコロニアリズム研究の事例として、日本でも川島耕司、研究分担者の杉本良男らの研究が続いた。

呼応して 2000 年代になると、Joy Dixon などを筆頭に創始者ブラヴァツキー夫人、第二代会長アニー・ベサントなどを研究対象として神智学の女権拡大運動に果たした役割を評価する研究が現れた。いわば太古の叡智としての仏教を託宣する女性 = 東洋という幻想の受容と流用とをコロニアリズムの遺産として歴史的に研究する機運が生まれたといえる。こうした動向を受け、1889 年のオルコットを日本へ招聘した平井金三らと明治の仏教復興運動の関係について、ほぼ同時期に、佐藤哲朗、Judith Snodgrass らの著作、そして研究分担者の吉永進一の共同研究報告書が刊行されることとなった。

研究代表者の安藤礼二は、これらの研究に触発され、神智学が折口信夫の『死者の書』や鈴木大拙らの著作に流用された系譜を指摘し、谷崎潤一郎の小説にまでその世界観が噴出することを明らかにした。そして以下の (A) ~ (C) の理由から、(1) 神智学ネットワークと文学芸術の関連、(2) 神智学周辺の多層的ネットワークの解明、(3) コロニアリズムとの関係の 3 点について着目し、本研究の応募に至った。

(A) 神智学に関する上記の研究状況が、文学、芸術、政治など、広義の近代史研究で共有されておらず、神智学運動の重要性と広がりが認識されていない。あるいは陰謀論的な憶測に基づき、過大に評価されている事例もまみられる。

(B) 神智学と鈴木大拙夫妻の関係は、A. Algeo や Tweed が指摘したが、その後の研究は吉永の業績にとどまり、日本における神智学運動についての研究は乏しい。というのも、資料が海外に眠っている場合が多く、物理的に個人が調査できる限界を超えていることが挙げられる。

(C) 研究の基礎となる一次史料の調査が欠けている。日本国内では鎌倉の松ヶ岡文庫、インドではアディヤールの神智学協会本部、オーロピンド・アシュラム、アメリカの神智学協会、イギリスやインドの公文書館などに保存されている関係資料がほとんど調査されていない。

2. 研究の目的

従来、神智学は疑似仏教や知識人の迷信として、極めて低い評価しか与えられてこなかった。しかし、近年の研究では、この秘教思想のオリエンタリズムが、世紀転換期における東西の多層的な文化接触をもたらしたこと、アジアにおいては仏教復興運動のみならず、ナショナリズムや汎アジア主義を育んだことが明らかにされている。一方、日本でも、そのトランスナショナルなネットワークに白樺派や黒龍会、我楽多宗まで含まれていることがわかっている。しかし、従来、欧米と日本の研究を結ぶ場はなかった。

そこで本研究では、国内外の研究者が協力する場を構築し、一次資料を徹底的に調査・共有し、日本、アジア、欧米を結ぶ複雑な人的交流を解明し、神智学の国際的友愛の理念と民族主義の相克を、文学、芸術、思想の分野で明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

神智学について、海外調査と国内調査により、一次文献を調査し、デジタル化を行った。神智学協会本部のあるインドのアディヤールのほか、地域および主題に応じて、関連施設としてオーロピンド・アシュラム、アメリカ神智学協会、ロンドンの大英図書館・公文書館、ベルファストの公文書館、日本の松ヶ岡文庫を調査した。神智学協会メンバーそのものの事績と足跡のみならず、彼等をインド独立運動の扇動者として過大に脅威とみなしていた英国の諜報機関による記録と照合し史実を明らかにすることを試みた。

また関連する外部の講師を招聘した研究会を行い、研究成果を精練し、日本比較文学会ほか内外の関連学会で成果を発表した。そ

のフィードバックをふまえ、内外の研究者を招聘し、日本で初めての大規模な国際会議を開催した。最終報告書は単行本として出版し、その概要はインターネット上でも公開する予定である。

4. 研究成果

2014年(平成26年)度は、研究分担者の多くを集めて、2014年10月に東京で、2015年2月に京都で、合計2回の大規模な研究会を行った。研究代表者の安藤、研究分担者の赤井、岡本、チャプコヴァー、橋本、吉永が参加した2015年10月25日の公開講演会「芸術と秘教的ネットワーク」(於多摩美術大学)には、ロンドンのPaul Mellon Center for Studies in British Artからサラ・ヴィクトリア・ターナーSarah Victoria Tunerを、筑波大学から五十殿利治をそれぞれ招聘し、Sarahは“A world-wide exchange of art powers : Theosophy and artistic networks in the early twentieth century”、五十殿は「久米民十郎の「レーテリズム」とモダニズム」というタイトルの講演を行い、東西の芸術運動に神智学が与えた甚大な影響を浮き彫りにした。翌26日にもサラを中心に上記のメンバー全員が参加し、「神智学研究の現状と今後」について研究会を開催し、意見交換を行った(於早稲田大学)。

海外調査については、赤井、安藤、岡本、杉本、チャプコヴァーはインドに、吉永、橋本及び研究協力者の荘はイギリスに赴き、神智学に関連した各研究施設および図書館で資料調査を行い、関係者と面談を重ねた。国内調査としては吉永を中心に、安藤と岡本も参加し、鎌倉の松ヶ丘文庫に残されている鈴木大拙の蔵書(特に雑誌類)を調査し、整理した。いずれも今回はじめて外部の研究者が入って調査が可能になったものである。それらの研究成果は、2015年2月27日に開催された特別講演会「秘教的コネクションと近代世界」(於京都大学)の後半、「会員の研究報告と今後の研究計画」において赤井、吉永の司会のもと、杉本、荘、岡本、橋本によって報告された。

2015年(平成27年)度は、ドイツのハイデルベルグ大学(9月24日から26日)およびアメリカのコロンビア大学(10月9日から10日)で開催された国際カンファレンスの発表者として研究分担者を派遣することができた。「諸境界を横断する神智学」を主題としたハイデルベルグでは、稲賀が九鬼周造について、荘が上海の神智学ロッジについて、チャプコヴァーがボンデイチュリーのオーロピンド・アシュラムについて、橋本がジェイムス・カズンズについて、吉永が鈴木大拙夫妻の創設した大乘ロッジについて、それぞれ研究成果を報告した。「神智学と諸芸術」を主題としたコロンビアでは、赤井がやはり

大拙夫妻を中心とした神智学ロッジについて、荘が中国における神智学の受容について、チャプコヴァーが神智学の文化横断性について、研究成果を報告した。

海外調査としては、赤井がスリランカとインド(ダルマパーラ研究)を、安藤がインド(オーロピンド・アシュラム研究)を、岡本が中国(岡倉天心研究)を、杉本がインド(インド独立運動研究)を、荘がオーストラリア(シドニー神智学協会研究)を行った。国内調査としては吉永を中心に北鎌倉の松ヶ岡文庫で鈴木大拙夫妻の洋雑誌の目録作りのための整理作業が行われた。

上記のいずれの研究成果も、2014年度からの継続的な研究を土台として、そこにさらなる新たな知見を盛り込むかたちで可能になった。当初の目的の一つであった世界に向けての研究成果の発信は十分に果たされたと思われる。

2016年(平成28年)度は、当初最終年度に予定していた海外から専門の研究者を招聘しての国際カンファレンスを、研究の順調な進展を鑑み、一年前倒しをして、実施することが可能になった。コルゲート大学からジョスリン・ゴドウィン(Joscelyn Godwin)、エアフルト大学からマルコ・パシ(Marco Pasi)、ハダースフィールド大学からレイチェル・カウギル(Rachel Cowgill)、カリフォルニア大学からマーク・ベビア(Mark Bevir)を招聘し、2017年3月7日と8日の両日、研究分担者および協力者の全員が参加し、大阪の国立民族学博物館で公開の国際カンファレンス「近代と秘教的ネットワーク：神智学、芸術、文学、政治」を開催した。また、3月11日には海外からの招聘者からの報告を中心に、京都人文科学研究所でラウンドテーブルももたれた。

国際カンファレンスは、神智学と20世紀の芸術をめぐるゴドウィンの基調講演をはじめとして、全体として5つのセッションに分かれ、1日目の第1セッションでは「文学と秘教」の問題、第2セッションでは「芸術(美術および音楽)と秘教」の問題、2日目の第3セッションでは「政治と秘教」の問題、第4セッションでは「大正時代の日本と秘教」の問題が論じられ、第5セッションでは「総合討論」が行われた。神智学の問題を、これほど多様な視点から、しかも国際的な規模で論じるカンファレンスが日本で開催されるのははじめてのことである。研究の最前線に立つ研究者の報告を聞き、討議を行うことで、これまでの調査研究に一つの総合が与えられるとともに、今後の方針を定めることができた。

国際カンファレンス以外の調査としては、大正期の日本の神智学運動を代表する鈴木大拙、ピアトリス夫妻の蔵書および書簡が保管されている松ヶ岡文庫の整理調査を継続して行った(赤井、安藤、吉永が参加)。

2017年(平成29年)度は、昨年実施した国際カンファレンスに基づき、さらにアメリカから、神智学研究、特にその基礎資料収集では他に類をみないほどの成果を上げているジョン・パトリック・デヴニー(John Patrick Deveney)を招聘し、研究分担者および研究協力者の全員が参加するワークショップ、「アジア・仏教・神智学」を、12月9日と10日の2日間にわたり開催することができた。

龍谷大学大宮学舎で行われたワークショップ1日目(使用言語=日本語)では、セッション1「禅のグローバル化と、その文脈」、セッション2「神智学の遺産」で、岩田真美および堀の司会のもと、それぞれ3名(日沖直子、荘、末村正代と橋本、栗田英彦、岡本)の研究発表が行われ、コメント(守屋友江、杉本)が寄せられた。セッション3では稲賀と安藤の対論のかたちで「鈴木大拙と南方熊楠・シカゴ万博・神智学・大乘仏教」が行われ、この4年間の「神智学と近代日本」をめぐる諸問題の総括が行われた。

京都大学人文科学研究所で行われたワークショップ2日目(使用言語=英語)では、赤井の司会のもと、チャプコヴァー、ヤニス・ガイタニデスの研究発表が行われ、最後にデヴニーによって黎明期の神智学の状況が語られた。ヨーロッパおよびアメリカの神智学の起源と現在を浮き彫りにすることが可能になった。このワークショップに向けて、これまでの各人の研究のまとめと課題を整理し、公に発表するという科研費による共同研究の最終年にふさわしい一年になった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計21件)

杉本良男、ネオ・ヒンドゥイズムの系譜学
南アジア宗教ナショナリズムの病、NIHU
Research Series of South Asia and Islam、
査読無、vol.7、2015、1-40

橋本 順光、インドの陶芸家グルチャラン・シン 朝鮮半島に重ねられるインド、民藝、査読無、748号、2015、56-60

荘 千慧、中国から消えた神智学協会 伍廷芳による神智学紹介と近代中国仏教界との関わりに着目して、比較文化研究、査読有、111、2014、245-253

吉永進一、松ヶ岡文庫未整理資料について、公益財団法人松ヶ岡文庫研究年報、査読無、29、2015、61-81

赤井敏夫、ダルマパーラ日記の資料的価値と異本成立の過程に関する考察、人文学部紀要、査読無、36、2016、25-34

橋本順光、インドの陶芸家グルチャラン・シン 3 神智学との出会い、民藝、査読無、749、2015、54-59

杉本 良男、西欧キリスト教的聖概念の再検討、民博通信、査読無、154、2016、18-19、
<http://www.minpaku.ac.jp/sites/default/files/research/activity/publication/periodical/tsushin/pdf/tsushin154-06.pdf>

吉永進一、Hansei Zasshi と大拙 松ヶ岡文庫未整理資料より(3)、松ヶ岡文庫研究年報、査読無、31巻、2017、65-77

Helena Capkova、Theosofie jako sit: Metodologicke zamysleni v kontextu mezivalecneho Japonska (Theosophy as network, methodological review in the context of interwar Japan)、Sbornik z 5. sjezdu historiku umeni、査読有、2017、216-224

橋本順光、義経=ジンギスカン説の輸出と逆輸入：黄禍と興亜のあいだで、アジア神学、査読無、216巻、2018、129-145

[学会発表](計58件)

杉本 良男、東と東のすれ違い アナガリカ・ダルマパーラと日本、日本宗教史像の再構築、神智学研究会、2015

橋本 順光、英国外交文書にみるジェイムス・カズンズ、日本宗教史像の再構築、神智学研究会、2015

岡本 佳子、日印の仏教復興とまぼろしの東洋宗教会議、日本宗教史像の再構築、神智学研究会、2015

荘 千慧、上海共同租界における神智学運動、日本宗教史像の再構築、神智学研究会、2015

稲賀 繁美、Heritage Management as an Act of Compensation: A New insight into Knowledge Transfer、A German-Japanese Colloquium: Knowledge Transfer Across Borders: Integrative Approaches (招待講演)、2015

Shigemi Inaga, Kuki Shuzo, and the Idea of Metempsychosis: On the Fringe of Theosophical Thinking?, Theosophy Across Boundaries (国際学会)、2015

Shigemi Inaga, Nandalal Bose and Arai Kanpo: a brief Overview of their Friendship, 国際ベンガル学会第4回大会(国際学会) 2015

Shin'ichi Yoshinaga, Mahayana lodge reconsidered, Theosophy Across Boundaries (招待講演)(国際学会) 2015

吉永進一、神智学ネットワークと仏教 鈴木ピアトリス蔵書から見えるもの、日本宗教学会第74回学術大会、2015

Toshio Akai, International Lodge Reconsidered, Theosophy and the Arts: Texts and Contexts of Modern Enchantment (国際学会) 2015

Yorimitsu Hashimoto, An Irish Theosophist's Pan-Asianism? James Cousins, Gurcharan Singh and British Secret Agents, Theosophy Across Boundaries (国際学会) 2015

Capkova Helena, Theosophy as a network - methodological re-consideration in the context of interwar Japan, 5th Congress of Art Historians: Science and Art (国際学会) 2015

Capkova Helena, The Golconde Dormitory in Puducherry (1935-1945) - Theosophy as a Transnational Network, Theosophy Across Boundaries (国際学会) 2015

ヘレナ・チャプコヴァー、アントニン・レーモンドのインド、モダニズムにおける日欧交流史研究会 第5回、2015

莊千慧、Reception and Propagation of Theosophy in China: With Special Focus on the Introduction of Theosophy by Wong Chin-Foo(1847-1898) and Wu Ting-fang (1842-1922), Theosophy and the Arts: Texts and Contexts of Modern Enchantment (国際学会) 2015

莊千慧、Education Carried out by Theosophists at the Shanghai International Settlement: Besant School for Girls without Annie Besant, Theosophy Across Boundaries (国際学会) 2015

莊千慧、神智学協会が上海共同租界で行った教育事業 ベサントのいないベサント・スクール、特別企画ワークショップ「アジアの神智学」(第7回神智学研究会) 2015

安藤 礼二、神智学と大正期宗教運動：鈴木大拙・折口信夫・出口王仁三郎、International Conference "Modernity and Esoteric Networks : Theosophy, Arts, Literature and Politics" (国際学会) 2017

杉本 良男、マハートマ・ガンディと秘教、International Conference "Modernity and Esoteric Networks : Theosophy, Arts, Literature and Politics" (国際学会) 2017

橋本 順光、ジンギスカンの復活をめぐる物語：王墓の篡奪戦と神智学、International Conference "Modernity and Esoteric Networks : Theosophy, Arts, Literature and Politics" (国際学会) 2017

② 莊 千慧、近代中国における神智学運動：教育面でみる東西文明の交渉と葛藤、International Conference "Modernity and Esoteric Networks : Theosophy, Arts, Literature and Politics" (国際学会) 2017

② 杉本 良男、聖人化されるガンディー、国立民族学博物館共同研究「聖地の政治経済」研究会、2016

③ 岡本佳子、明治日本の欧米人仏教徒と神智学 ウィリアム・S・ビゲロウの場合、神智学研究会・鈴木大拙研究会主催ワークショップ「アジア・仏教・神智学」 2017

④ Helena Capkova, ガラクタの集い：二つの世界大戦間の日本における、越境的な神智学ネットワークについて・再考、近代と秘教的ネットワーク：神智学、芸術、文学、政治、2017

⑤ Helena Capkova, Milos Maixner (1873-1937) and the Cosmic Movement in the Context of Czechoslovak Hermetism, The Cosmic Movement: Sources, Contexts, Impact, 2017

⑥ Helena Capkova, Theosophy as a vehicle for Indian Modernism the architecture of Golconde dormitory, Axel and Margaret Ax:son Johnson Foundation closed international seminar Indian Influences on the West, 2017

⑦ Helena Capkova, シュリー・オーロピンド・アーシュラム アートと生活の間、国際日本文化研究センター共同研究会責任者：稲賀繁美「多文化交渉における あいだ の研究」 2017

⑳ Helena Capkova、History of the Theosophical Society in Interwar Japan? Reading the documents from the Adyar HQ、神智学研究会・鈴木大拙研究会主催ワークショップ「アジア・仏教・神智学」、2017

㉑ 堀まどか、野口米次郎と神智学ネットワーク、第4回ヨネノグチ学会、2017

㉒ 堀まどか、境界者の文芸と民族運動のあいだ、第4回「多文化交渉における あいだの研究」共同研究会、2017

㉓ 莊千慧、上海神智学支部と初代会長 H・P シャストリー、神智学研究会・鈴木大拙研究会主催ワークショップ「アジア・仏教・神智学」、2017

㉔ 莊千慧、神智学徒 H. P. シャストリー (1882-1956) のアジア滞在 霊性運動とコロニアリズムのあいだ、国際日本文化研究センター共同研究会「多文化交渉における あいだの研究」、2017

㉕ 橋本順光、在日インド人をめぐる諜報活動と神智学 アタル・シャストリー・サバルワル、神智学研究会・鈴木大拙研究会主催ワークショップ「アジア・仏教・神智学」、2017

〔図書〕(計18件)

安藤 礼二、講談社、折口信夫、2014、533

安藤 礼二、河出書房新社 (KAWADE 夢ムック) 谷崎潤一郎：没後五十年、文学の奇蹟、2015、271 (93-98)

稲賀 繁美、京都芸術センター、「継ぐ」ことと「償い」と：伝統の喪失から喪失の伝統へ』『継ぐこと・伝えること』、2014、296 (279-283)

稲賀繁美、名古屋大学出版会、接触造形論：触れ合う魂、紡がれる形、2016、484

末木文美士 (編)、稲賀繁美、他、山喜房書林、比較思想から見た日本仏教、2015、547

吉永進一、中西直樹、仏教国際ネットワークの源流 海外宣教会 (1888年~1893年) の光と影、三人社、2015、232

Martin Collcutt, De-min Tao, and Yoshiko Okamoto et al. eds, Society for Cultural Interaction in East Asia, Trans-Pacific relations: in the late 19th and early 20th centuries: culture, commerce, and religion、2015、333

岡本佳子 (共著)、ミネルヴァ書房、帰一協会の挑戦と渋沢栄一、2018、164-175、229-232

Shigemi Inaga、国際日本文化研究センター、A Pirate's View of World History: A Reversed Perception of the Order of Things From a Global Perspective、2017、174

稲賀 繁美、思文閣出版、海賊史観からみた世界史の再構築：交易と情報流通の現在を問い直す、2017、852

6. 研究組織

(1) 研究代表者

安藤 礼二 (ANDO Reiji)
多摩美術大学・美術学部・教授
研究者番号：20445620

(2) 研究分担者

杉本 良男 (SUGIMOTO Yoshio)
国立民族学博物館・名誉教授
研究者番号：60148294

吉永 進一 (YOSHINAGA Shin'ichi)
舞鶴工業高等専門学校・人文科学部門・教授
研究者番号：90271600

赤井 敏夫 (AKAI Toshio)
神戸学院大学・人文学部・教授
研究者番号：00192873

稲賀 繁美 (INAGA Shigemi)
国際日本文化研究センター・研究部・教授
研究者番号：40203195

橋本 順光 (HASHIMOTO Yorimitsu)
大阪大学・文学研究科・准教授
研究者番号：80334613

岡本 佳子 (OKAMOTO Yoshiko)
国際基督教大学・アジア文化研究所・研究員
研究者番号：70468560

チャプコヴァー ヘレナ
(Capkova Helena)
早稲田大学・国際学術院・助教
研究者番号：80631332

莊 千慧 (CHUANG Chienhui)
大阪大学・文学研究科・特任助教 (常勤)
研究者番号：50711123

堀 まどか (HORI Madoka)
大阪市立大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：20586341